

人材育成ゆふいん財団ニュース

The Yufuin Human Resource Foundation NEWS

VOL. 56

今号の主な内容

- 公益財団法人人材育成ゆふいん財団設立のお知らせ・・・1
- 国際交流事業／旅日記・・・・・・・・・・・・・・・・・・3～5
- ゆふいんtopic・・・・・・・・・・・・・・・・・・6
＜KEEP ON GREEN Concert2009＞
＜ゆふいんこども音楽祭＞
- ゆふいん元気！・・・・・・・・・・・・・・・・・・7
＜ゆふいんで「エコウォーク」準備中です！＞
- ゆふいん元気！・・・・・・・・・・・・・・・・・・8
＜馬との出会い体験「お馬さんがやって来た～in聖愛保育園～」＞
- 掲示板・・・・・・・・・・・・・・・・・・8

- 発行日／2009年12月9日
- 第56号
- 発行／公益財団法人人材育成ゆふいん財団
- 発行人／溝口薫平
- 編集責任者／霜野圭一
- 編集／事務局企画委員会編集部
住所／湯布院町川上2863
TEL／85-4748 FAX／85-4759
E-mail／zd21yufu@dream.ocn.ne.jp
H.P／http://sky.geocities.jp/zd21yufu/

新たに公益財団法人として、人材育成ゆふいん財団がスタートします。

＜公益認定等審査会などこれまでの経過＞

- 平成20年9月10日
平成20年度 第3回理事会、評議員会
・公益法人制度改正
→公益法人への移行を目指すことで確認
- 平成21年3月18日
第1回目 内閣府へ電子申請
- 平成21年4月13日
平成21年度第1回 大分県公益認定等審査会
…法人の紹介のみ
- 平成21年6月30日
第2回目 内閣府へ電子申請
- 平成21年7月15日
平成21年度第2回 大分県公益認定等審査会
…事業の枠組み、会計書類の再検討を指摘
- 平成21年9月4日
第3回目 内閣府へ電子申請（補正・修正）
- 平成21年9月15日
平成21年度第3回 大分県公益認定等審査会
…会計書類・収益・財産運用の再検討を指摘
- 平成21年10月16日
第4回目 内閣府へ電子申請（補正・修正）
- 平成21年10月23日
平成21年度第4回 大分県公益認定等審査会
…移行認定の答申
- 平成21年11月4日
「公益財団法人人材育成ゆふいん財団設立」

11月4日公益財団法人人材育成ゆふいん財団設立

公益認定を審査するための合議制機関である第4回大分県公益認定等審査会が10月23日に開催され、人材育成ゆふいん財団が公益財団法人への移行を認める答申を受けました。

昨年9月から始まった公益法人改革の議論から約1年越しの努力が実りました。単に1年ということではなく、これまでの財団の功績が評価を受け、「これからもがんばって下さい」というエールを審査会からいただきました。

11月4日に新法人「公益財団法人人材育成ゆふいん財団」の登記が完了し、晴れて設立！ということになりました。全国で約25,000ある公益法人の中でも70番目の設立。県内でも2番目という快挙となりました。

公益財団法人としての本格的運営がスタート

公益財団法人人材育成ゆふいん財団となり、公益法人改革関連三法という国の法律に基づく理事会・監事会、評議員会による体制がスタートします（これまで民法に基づく法人でした）。

認定を受ける際には、以下の条件を満たすことが必須事項でしたが、設立後の運営においても基本的にはこれらの条件を満たす運営を目指し、次のページの事業体系で示す2つの公益目的事業を推進していきます。財産の運用益や寄附金等を事業ごとの2つの基金に積み立てをして、その基金を活用しながら健全な公益目的事業の推進を図っていきます。公益財団法人のメリットや税制優遇などについては、これから定期的にお知らせ、分かりやすく解説もしていきたいと思っております。

以下の主な条件を満たす公益法人が内閣府から認定を受けます（認定後も主管は内閣府となります）。

●技術的能力を有すること

- ・事業を実施するための技術や専門的な能力を持つ人材、設備などの能力を有すること

●経理的基礎を有すること

- ・安定的かつ継続的な公益目的事業を実施するために財務状況が健全で、財産の管理、運用について役員が適切に関与していること。

●特別な利益を与える行為を行わないこと

- ・理事などの法人の関係者など、その他の営利事業を営む者などに特別な利益を与えないこと

●公益目的事業比率が50%であると見込まれること

- ・事業に要する費用が、事業費及び管理費の合計額に縮める割合が50%以上であること

●収支相償であると見込まれること

- ・事業に係る収入の額が、その事業に必要な適正な費用を償う額を超えないこと（事業毎と全体の2段階で計算）

●遊休財産額が一定の比率を超えないと見込まれること

- ・遊休財産額（具体的な用途の定まっていない財産の額）が、1年分の事業費相当額を超えないこと

公益財団法人 人材育成ゆふいん財団

- 人材育成ゆふいん財団は、主として湯布院地域で人材育成に関する調査研究を行っている公益法人です。
- ゆふいん（湯布院地域や湯布院に関わる人づくり、まちづくり）で培った調査研究の経験と実績を活用し、大きくは次の2つの公益目的事業を実施していきます。

<公益目的事業1>

市民の0歳から100歳までの学びを奨励、援助する事業

（国内外やゆふいんにおいて市民が自ら学び、自ら実践していくための多様な自主的学習や人材育成の機会を提供することで、0歳から100歳までの学びを奨励、援助していく事業）

国際交流・ふれあい学習基金の活用



1) 国際交流事業（旧国際ふれあい交流事業）

小・中学生という多感な時期に故郷・ゆふいんを離れ、文化や言葉の違う他国を訪れることにより、改めて自分の住む地域や日本について興味・関心を抱くこと、また国際化が進む中、子どもたちの将来へ向けて国際経験を積むことを目的に公募し、選考された子どもたちと大人のボランティア引率者、計16名の使節団を韓国や中国などのアジア諸国等へ派遣し、国際交流を行う事業。



2) ふれあい学習事業

様々なテーマ・分野で活動する団体やグループ、個人と連携をしながら、環境学習やふれあい学習、各種文化・芸術普及活動など、地域社会の健全な発展に資する0歳から100歳までを対象にした様々な学習、人材育成の機会を提供する事業。



3) 人材育成活性化のための調査・研究事業

（旧活性化のための事業）

身の回りを取り巻く環境が社会情勢と共に激しく変化していく中、「人」に焦点をあて、大きなリーダーシップより小さなリーダーシップを数多く育成することをねらいとし、ゆふいんの特性と人脈を活かして、様々な職種・テーマ性を持たせながら「人材育成」「環境問題」「教育問題」等の各種講演や啓発・普及活動などを行いながら、人材育成活性化の調査・研究を行う事業。

<公益目的事業2>

市民の実践活動の促進を援助する事業

（市民が実践する公益的活動に資する人的支援や情報・ネットワーク支援を図り、さらにそれらの支援を受けながら名誉ある功績を残した活動に対して助成・顕彰を行い、市民実践活動のさらなる促進や継続的な側面的援助を行う事業）

市民実践活動基金の活用



1) 市民実践活動への人的支援事業（旧後援事業）

市民が実践する公益的活動の企画・運営に対しての相談やアドバイスを行い、必要に応じて事業運営のマンパワーの補足をする他、当財団が蓄積する人材バンク・ネットワークを活用して適材適所となるボランティアの紹介をするなど人的労務の支援を行う事業。



2) 市民実践活動への情報・ネットワーク支援事業

（旧情報・ネットワーク事業）

市民が実践する公益的活動やゆふいんに関わる様々な動きを取材し、話題を集め、その情報を情報誌「人材育成ゆふいん財団ニュース」の発行やホームページを活用することで、市民実践活動の情報受発信と相互のコミュニティネットワークの構築につなげていく事業。また、そうした情報媒体を通じて、市民実践活動が企画・運営する講演会、研修会、文化的イベントなどの広報活動の支援を行う事業。



3) 市民実践活動への助成・顕彰事業（旧夢実現支援事業）

講演会、研修会、文化的イベントなど、ある一定期間において自主的に公益的活動を企画、事業運営している個人・グループ・団体、或いは継続して主体的に公益的活動を実践している個人・グループ・団体を対象に、公正な審査の上助成金による支援を行う事業。また、それらの支援を受けながら名誉ある功績を残した個人・グループ・団体を対象に、公正な審査の上、顕彰を行う事業。

第8回 ゆふいん～アジアふれあい交流子ども使節団「日韓交流の旅」 韓国・ソウル・水原 カムサハムニダ（感謝）！訪問日記

2009年8月2日(日)～8月4日(火)

1日目/出発

さあ出発式です。溝口薫平理事長、清水嘉彦副市長、清永直孝教育長、加藤淳一由布院小学校長から激励のお言葉をいただきました。そして、関係者や保護者など多くの方に見送られました。本当にありがとうございました。

さて、団員からは、副リーダーである由布院小学校6年生・河野美紅さんが「韓国の友達と交流して、そして韓国の文化にふれて多くのことを学んできます。」と決意表明。そしてリーダーである安部竜矢くんが「使節団メンバーが一致団結して、まとまりをもって韓国で元気に交流をしてきます。がんばります！！」と元気よく決意表明をしてくれました。

いよいよ湯布院を立ちます。みんな懸命に手を振っていました！いざ、行ってきます！！



空港に到着すると、搭乗手続きと出国審査が待ち受けています。海外は初めてという子どもも多いです。荷物を預け、いざ手荷物検査へ。「ベルトのバックルは大丈夫？」「ネックレスはひっかかる？」ととにかく不安に思っていました。

そしていざ飛行機の機内へ！初めての飛行機という子どももいたようです。出発前の不安な表情。「もう飛んだ？飛んでる？」という不安の声がありましたが、まだ離陸しておらず、動いているだけです…。いよいよ離陸し、飛び立ちました。そし

て機内食。みんなモグモグ食べていて、先ほどまでの不安は吹き飛んでいるようです。

あっという間に韓国、仁川空港に到着。無事に入国審査を終えてバスでソウルへ向かいます。3日間の現地添乗員の張富京さん（チャンさん）が出迎えて下さいました。「アニョハセヨ！（こんにちは）」バスの運転手さんにもご挨拶していざ出発です。

そして最初の訪問地、青瓦台に到着。ここは大統領官邸があるところ。ふと周りを見渡すとヘルメット姿で自転車に寄り添っている二人の男連れ！？誰？！という子ども達の声。答えは警察官！さすが大統領官邸です。赤信号で交差点を渡った観光客に容赦なく怒る警察官を見て「あんなに怒らないでも良いのに…」と湯布院中学2年生の河野壘くんがつぶやきました。

次の訪問地の景福宮に到着しました。ここは国立民族博物館でソウルに数ある王宮の中でも最初期のものになります。到着してすぐに「のどが渴いた～」という由布院小学校6年生の河野美紅さん、若林理恵さん、圓山夏希さんトリオが初めての自販機体験をします！まだまだウォンの感覚になれておらず、戸惑いの表情。やっと購入！！と思いきや館内は飲食禁止。「うえっ、飲みきらん！」。日本と韓国のジュースの味の違いもよく分からないまま、とにかく飲みほしていました。

さあ王宮を見学。チャンさんが建物の構造を見せながらオンドルの仕組みを解説してくれます。とにかく建物の装飾も細やかで、引率の梅野佳美さんも絶賛していました。大人も驚く発見が多い！王宮に続く道があります。真ん中を王様、側近



が両サイドにつきま。湯布院中学3年生の門田杏奈さん、木村拓詞くん、松下翼くんが実践してみます。はたして王様は？門田杏奈さんです。女性が王様のようです。

次に訪れたのが仁寺洞という繁華街です。すごい人混みです。さあ班別自由行動。野球部グループの湯布院中学3年生の安部竜矢くん、森誠斗くん、森星矢くんのトリオが向かった先はバッテリーセンター。1回1000ウォン。「高い！」と3人は叫びます。

いやいや日本円で考えると83

円ぐらいでしょ！1000円と違います、早くウォンに慣れましょう！こんな混み合った商店街の中にバッテリーセンターがある！日本ではほとんど見られない光景です。しかも、機械のピッチャーからバッテリーボックスまでの距離が近い！！湯布院中学校2年のの中塚久遠くんと河野壘くん、1年生の櫻井麻稀くん、引率の阿部哲哉さんは早速韓国の辛い焼き鳥を食べたみたいです。「辛い～！！口の中が燃える～～！」と騒いで帰ってきました。初体験ばかりの初日です。



2日目/交流会

最初の夕食、カルビです。韓国のカルビには辛みを加えるコチジャン味噌やキムチ、それらを巻くサンチュがついてきます。やはり焼き肉は大人気。明日は水原市で交流会です。「まずは、大声で元気よく自己紹介ができるように準備をしておいて下さい。何かお互いの距離を縮めていけるような企画をしたいと思います。各自で良いアイデアがないか考えて下さい」と出発したばかりのバスの中で子ども達に呼びかけをしました。そして夕食時にどういった企画をするか聞いてみることになりました。

「さあ、何をやるか？ 私たちを迎えてくれる方々のために、私たちは何ができるでしょうか。そういった思いを持って考えて下さい。」団長の霜野圭一さんが口火を切ります。しかし、子ども達からはなかなかアイデアが出てきません。引率の大人は「待つ」という苦しさに耐えて

いきます。結局、結論が生まれませんでした。

ホテルに帰って延長戦となり、企画ミーティングは続きます。「クイズをしよう！」何となく出てきたことから、話は何となく決まっていきます。この議論の舵取りはリーダーの安部竜矢くんが行っていきます。結局、お互いの共通点は「ドラえもん」ということで、一つのねらいを見つけることができました。ドラえもんに関する○×クイズと歌の合唱！それが約2時間におよぶミーティングで子ども達が出した結論でした。クイズが決まり、歌については翌日の移動のバスでリハーサルです。



交流会当日を迎えました。しっかりと朝食時間に集合していました。そして交流会へ向けて、ソウルを発ちます。すぐにドラえもんのリハーサルです。

水原市に到着。「感極まって、思わず涙が・・・。」という団長の霜野圭一さん。念願の交流会ということもあって、思い入れが違います。水原市役所にバスをつけて、まずは担当者の方とご挨拶。その後庁舎の中にある水原市の紹介フロアに行き、水原市についての説明を受けました。

そして、交流会場の博物館に到着しました。初めての顔合わせ。水原市からは小学生が2名、中学生が7名、高校生が7名、大学生などが6名が出迎えてくれました。

まずは各自、自己紹介からです。まずはリーダーの安部竜矢くんが元気に韓国語で自己紹介しました。「いけ！その調子だ」

事務局大澤は少々興奮気味です。水原市からは大きな拍手を受けました。次々とみんな韓国語で立派に自己紹介をすることができました。事前の勉強会の成果が出せました。

次是水原市からの自己紹介です。皆さん日本には非常に興味を持っているようです。添乗員のチャンさんの通訳を聞きながら、日本語が得意な大学生などの話を聞きながら交流が進んでいきます。それぞれの質問タイムに移ります。「好きなアニメは何ですか？」という水原市からの質問に、なかなか答えきれない子ども達。。。何で？好きなアニメを答えるだけなのに。こうしたやり取りを繰り返しながら、お互いの距離を何とか縮めていきます。「BLEACH」「ドラえもん」「ドラゴンボール」「野球選手」。共通点が次第に見つかっていきます。

そしていよいよドラえもん○×クイズに移ります。出題をし

て○側の席と×側の席に水原市の方々が移動します。「第1問！ドラえもんにはもともと耳があった。○か×か？」森誠斗くんが出題をします。○側と×側が分かれたところで回答。その後も難問が続き、驚きの声が上がりました。回答についても各自、分担通りに解説を加えて、それを聞いた水原市の方々は大興奮でした。ゲーム形式を取り入れて大当たりでした。



○×クイズに引き続いて、ドラえもんの歌の披露です！みんな元気に大合唱！「アン♪アン♪アン♪とっても大好き♪ドラえもん～♪」合唱と手拍子で会場が沸きました。

次是水原市側からの歌の披露です。日本の歌と韓国の歌を歌って下さいました。何よりすごかったのはその歌唱力でした。日本語の発音もすばらしい！「日本を知りたい、学びたい」という気持ちが伝わり、そういった場面では子ども達は少々圧倒されていました。

プログラム終了後、緊張感から解放された顔が目立ちました！！しかし、何か充実感があつたのでしょうか。お別れの時はみんな元気に手を振りました。



さあ交流会のご褒美、ロッテワールドです。ここでは班別行動を取り、限られた時間の中で多くの乗り物に乗ったり、お店を巡ったりして、どれだけ効率良く楽しみを得るかが学習のポイントです。園内はほとんどが韓国語表記、英語表記です。英語理解、英会話力も勝負の分かれ目です。

前日に各自に作戦を立てておくようお願いをしました。最初はどの班も迷います。最初は元気よく駆け回りますが、どこも大行列。40分待ちぐらいが当たり前です。



各自乗りたいもの、行きたいところもそれぞれなので、班の

チームワークも必要になります。何より、引率も大変で、、、まず体力が違います。

集合時間です。誰？若林理恵さん、河野美紅さん、圓山夏希さんはキャラクターの仮面や王冠をかぶり、シッポ？がついている？すっかりロッテワールド色に染まっています。みんなどこに行ったのか報告会がはじまっています。

夕食は名物のプルコギです。プルコギ。。。すき焼きのような食べ物です。サンチェに肉や煮野菜を巻いて食べていきます。お好みにあわせてキムチ、コチジャン味噌をのせます。2日目ともなると辛いものには慣れてきたようです。ご飯もおかわり。

今日は盛りだくさんの一日だったので食欲があります。

3日目/最終日

最終日の朝食はアワビのお粥です。お粥の真ん中に生卵があり、アワビがところどころ見え

寄り、最後のお土産購入です。そして仁川空港へ向かいます。長かったようで短かった、短いようで長かった、子ども達の感想は様々でした。

空港に到着し、帰国のための搭乗手続きです。搭乗ゲートでチャンさんともお別れの言葉を交わしていきます。「本当にお世話になりました！！」。

ゲートをくぐると、免税店があります。ここで最後の買い物をして、搭乗口で待ち合わせ集合をします。みんな買い忘れないように。。。



そしていよいよ韓国を立ちました。もうすでに飛行機にも慣れてるような顔をしています。でも、やはり疲れがあるのでし

隠れています。

すっかり腹ごしらえをして、ソウル市中心街の清溪川で散策です。昔は道路だったところを、ソウル市民の憩いの場となるように川に再生した場所です。水を引っ張りせせらぎをつくり、魚もいます。周囲にビルが建ち並ぶ中、とても良い環境です。散歩する方もとても多いです。みんな一斉に記念撮影。

続いては10時オープンの免税店を目指します。買い物体験。日本円でも支払いができます。ドル、ウォン、円と3カ国の通貨を電卓で計算しながら考えていきます。最近のウォン安も影響して電化製品も少し安いです。みんな少しずつそのお得感に気づいていきます。

次に訪れたところはソウルタワーです。約500mの高さからソウル市内を一望することができます。高速エレベーターで一気に頂上へ。これまで見学したソウルの市街地が一望できます。

よう。帰りの飛行機はぐったり寝ている子ども達が多かったです。

あっという間に福岡空港に到着。みんな少しほっとした表情をしています。「やっぱり、日本が一番」という正直な言葉を耳にしました。帰りのバスはみんな静かに寝ていました。

そして湯布院に到着。無事に帰ってきました！！使節団の副リーダー門田杏奈さんからは「韓国に行って交流をして、とても良い経験ができました。この経験をこれからの人生に活かしていきたいと思います。」という帰国の挨拶。最後に「ありがとうございました」というリーダーの安部竜矢くんの号令で解団式は終了。これですべての行程が終了しました。みなさん本当にありがとうございました。今回の旅に関わるすべての方々「カムサハムニダ！！」。

KEEP ON GREEN Concert 2009

平成21年度
ゆふいん財団 後援事業

9月13日(日)に「KEEP ON GREEN Concert 2009」(実行委員長:高田淳平さん)がゆふいん七色の風/野外特設会場で行われました。

今年で第3回目となるこのコンサートは、「音楽を通じて由布院の豊かな自然環境の中で楽しい時間を過ごして頂き、その収益金で植樹活動を実施継続し、未来の子供たちへ美しい大地を届けよう」という思いの下に若者達が集い、開催を続けている「自然環境保全」を目的にしたチャリティイベントです。これまで開催された第1回、第2回のコンサートでの収益金も植樹活動に使われました。

県内外から7組のミュージシャンが集まり、昼から夕方まで数々の演奏が行われました。東京から出演のギターパンダのエンターテイメントに会場は驚愕。最後までたくさんの方が音楽を楽しみました。出演者による音楽で観客が楽しむことで生まれた収益金は、今後の植樹活動で利用する木の購入に充てられる予定です。



◆ギターパンダの演奏で盛り上がりを見せる会場

第9回 ゆふいん子ども音楽祭

平成21年度
ゆふいん財団 後援事業

10月3日(土)に第9回「ゆふいん子ども音楽祭」(実行委員長:米田昌子さん)が湯布院公民館で開催されました。音楽を通して子どもたちの感性を育もうという目的で、今回が9回目となるイベントです。

今年は「音楽の世界旅行 To America」というテーマで、昼の部は乳幼児から小学校中学年が楽しめるよう、劇などを織り交ぜて見て楽しむプログラム。夜の部は小学校高学年以上を対象として、純粋に音楽を楽しむプログラム。演奏は、県内外で活躍する音楽家がオペラやクラシックの名曲を披露。大分からスウィングエコーズジャズオーケストラを招き、「イン・ザ・ムード」や「シング」などのジャズの名曲の演奏が行われました。

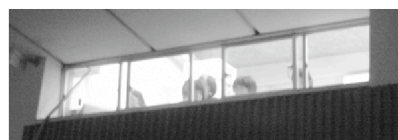
演奏以外にもこのイベントには特徴があります。それは準備や設営が大人と子どもの手によって行われることです。約3ヶ月前に子どもスタッフが公募され、今年は30名の子どもスタッフの参加がありました。飾りつけも子どもたちの手による絵や写真が飾られ、実際の運営におけるチケット回収やご案内なども子どもによって行われていました。昼の部の演奏の合間に織り交ぜられた劇のナレーションは中学生が務めました。また、プログラムの中で子どもも演奏家と一緒に演奏します。子どもの手による大人顔負けのこうした演出があるのもこのイベントの楽しみの一つになっています。回を重ねる毎に子ども達の成長も楽しみになっていきます。



◆昼の部の劇などを織り交ぜた演奏



◆最後はみんなで大合唱



◆劇のナレーションをする子どもたち



◆会場での子どものご案内



◆演奏に子どもが加わります

ゆふいん元気！

ゆふいんで「エコウォーク」準備中です！



◆ガイドするコースや内容を検討中(8月)。春の実施にむけて、現在も改良中です。



◆どんなコースができるか・・・意識しながら町の中を歩くといい発見がありました(9月)



◆ガイドの大先生(あさぎり会・土師さん)に付いて、ガイドの勉強。学ぶことがたくさんあります。(10月)

「エコウォーク」、初めて聞く言葉だと思います。「エコ」は「エコツーリズム」のエコ。「ウォーク」はWalk=歩く、ですね。エコウォークは、エコツーリズムの理念に沿った、歩くエコツアーです。でも「エコツーリズム」や「エコツアー」と聞くと、屋久島や知床半島など、圧倒的な唯一無二の自然環境を思い浮かべるかもしれません。世界遺産があるような地域でないと、エコツアーなんてできない？いえいえ、そんなことはありません。縄文杉はないけど、由布院の人たちが誇る由布岳があります。他の地域とは違う暮らしの風景があります。藁小積みだっけそう。地域によって 積み方が違いますよね。由布院の歴史や自然はもちろん、私たちが当たり前と思っている暮らしぶりも、実はよそから来た人にとっては珍しかったり、面白かったり。そして、その裏には由布院の人たちが大切にしている何かがあるかもしれません。それを案内人(ガイド)が、旅人と一緒に歩きながら伝える。それが「エコウォーク」です。ただ歩いただけでは分からない、地域の本当の良さを伝えて、旅人に由布院を好きになってもらいたい、という思いがあります。

そして、「エコウォーク」の特徴が参加料の仕組みにあります。参加者からいただく料金の中に、地域を保全する活動のためのお金を含んでいることです。旅人が楽しく地域を歩くことで、歩いた地域を守ることに参加できる仕組みになっています。

環境を消費するのではなく、環境を保全しながら活用する。地域の良さを、ゆふいんで暮らす人みずから伝え、地域を楽しむ—そんな旅人にとっても、地域にとっても楽しい活動を目指しています。

旅人に限らず、由布院の人たちとも一緒に歩きたいと思っています。そして、由布院の素敵な所、大切にしていることを、由布院に住む人の視点で教えてください。ゆふいんでのエコウォークは来年春の実施に向けて、準備中です！

(執筆：ゆふいんエコウォーク設立準備会 準備係 恒吉美智子)

●エコウォーク公式ホームページ <http://www.ecowalk.jp>
「エコウォーク」は日本エコウォーク環境貢献推進機構の登録商標です。

<公益財団法人 人材育成ゆふいん財団 平成21年度ふれあい学習事業>

ゆふいん子どもガイド養成講座・実践講座

主催：公益財団法人 人材育成ゆふいん財団、一般社団法人 由布院温泉観光協会

協力：ゆふいんエコウォーク設立準備会、湯布院ガイドあさぎり会、由布市商工観光課

- 日時：12月12日(土) ゆふいん子どもガイド養成講座
- Am9:30 受付・開講 -
12月13日(日) ゆふいん子どもガイド実践講座
- Am9:50 集合・開講 -
- 対象：小学5年生～高校3年生(定員15名)
- 参加費：1,000円(2日間の昼食代、傷害保険代を含む)
- 場所：健康温泉館クアージュ・交流室

※詳しくは、別添チラシをご覧ください。

お問い合わせ

公益財団法人 人材育成ゆふいん財団
事務局・大澤まで
電話：0977-85-4748
FAX：0977-85-4759
E-mail：zd21yufu@dream.ocn.ne.jp

ゆふいん元気！

馬との出会い体験「お馬さんがやって来た～in聖愛保育園～」

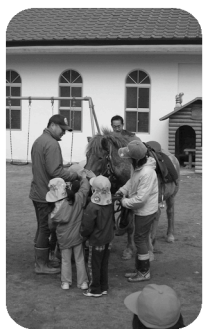


◆様々なお馬さんの特性について、ホースセラピストの寄田勝彦さんから教わります。



◆手綱を持って先導する園児たちにしっかりとオリーブちゃんがついて行きます。乗馬も大成功！

◆お馬さんと触れ合い、すっかり仲良くなれました。



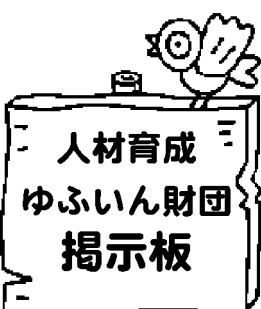
11月19日(木) 聖愛保育園にお馬さんがやって来ました。名前は「オリーブちゃん」。そのオリーブちゃんの登場で園内は大歓声に包まれました。環境教育のNPO団体(非営利団体)NPO法人インフォメーションセンター由布院事業所の主催で、園児が実際に馬とふれあい、食べ物をあげ、乗馬をして仲良くなる、お友達になるというふれあい体験プログラムが実施されました。

「お馬さんと仲良くなるためにはどうしたら良いのでしょうか？」というスタッフからの質問に、園児たちからは「優しくする！触る！」という正解が返ってきました。「もっと仲良くなるためには？」という質問には「おやつをあげる！」という大正解が飛び出します。答えのとおり、実際に馬に触れて芋やリンゴをあげてみます。「噛まれないようにするための注意事項があります。ジャンケンのグーとパーはお馬さんのお口には入りません。チョキにすると噛まれてしまうので注意して下さい。」とあげ方にもルールがあることを教えてもらいます。「あげたい人いますか？」というスタッフの呼びかけには、ほぼ全園児が「はい！」と元気よく手をあげました。

「馬には目でモノを確認する範囲、視界があります。視界に入らないところに入ってしまうと、馬はビックリしてしまうことがあります。馬の後側には特に注意が必要です。」と馬の特性についての説明を聞きます。その注意に従って、園児たちは実際に馬に触れて、芋やリンゴをあげていきます。食べ物をあげる度に拍手と大歓声がわき起こり、次第にお馬さんとの距離が近づく様子が分かります。怖がる園児はもういません。

次にもっと仲良くなるために、一緒に散歩をします。園児が乗馬し、6人ほど園児たちが手綱を持って馬を先導していきます。先導する園児たちにしっかりとオリーブちゃんがついていきます。こうしてすっかり仲良くなって、約1時間の体験プログラムは終了しました。最後に、園児一同が「オリーブちゃんありがとう」と元気にお礼を言いました。

NPO法人インフォメーションセンターは教育牧場活動や、まちづくり活動、海外でのNGO活動などを実施している団体です。その由布院事業所では、11月21日にはホースセラピー勉強会、22日にはホーストレッキングワークショップ、セグウェイ体験ワークショップ、スローカフェナイト、23日にはシンポジウム「スロータウン湯布院」などを実施されています。今後も来年2月20日には講師土田玲子氏(県立広島大学教授)による「ちょっと気になる子どもたちへの実践支援」と題した講演が予定されています。(問い合わせ連絡先：NPO法人インフォメーションセンター由布院事業所/0977-84-5301(南の風内まで))



念願だった公益認定を受け、公益財団法人が設立されました。途中、政権交代などもあり、公益法人改革の行方がどうなるのか注目される中で、認定を受けることになりました。最近のニュースでは、事業仕分け委員会などで、国の事業に対する関心も高まりつつあります。そういった中、公益法人の今後の動向についても、注目が集まります。

【編集後記】

とりあえず、ホッとしたのが正直な思いです。このように社会情勢が著しく変化している状況で国が認める、社会から認めら

れる公益法人になれて本当に良かったと思います。

昨年から取り組み、これまでかなりの作業を費やしてきました。その間、本来、皆様に広報すべき事業報告や各種事業に関連する情報発信などが手薄になったことを深くお詫び申し上げます。

今回の認定を受けるために法人内部の改革をかなり進めてきました。その成果を今後の公益目的事業の推進に活かしていきたいと思えます。これからもご支援、ご協力よろしくお願い致します。

事務局*大澤直彦